

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスちから		
○保護者評価実施期間	2026年3月1日		2026年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2026年3月1日		2026年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子ども理解に基づいた質の高い個別支援	・アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズに基づいた個別支援計画を作成し、職員間で共有しながら支援を実施している。 ・保護者評価においても「子どもの理解」「専門性のある支援」「計画に沿った支援」がすべて高評価となっている。	・アセスメントの質向上や記録の分析を進め、より根拠に基づいた支援へ発展させる。
2	・安定した環境整備と安心できる通所環境	・空間の構造化や清潔な環境維持、個別スペースの確保などにより、子どもが安心して過ごせる環境を整えている。 ・保護者評価でも環境面はすべて高評価であり、通所の安心感・満足度も100%となっている。	・子どもの特性(感覚過敏など)に応じた環境調整をさらに進め、より個別最適な環境設定を行う。
3	・保護者との信頼関係と丁寧な情報共有	・日々の連絡や面談を通して子どもの状況を共有し、保護者との共通理解を重視している。 ・相談対応や説明体制についても高評価を得ている。	・支援内容や成長のポイントをより具体的に伝えるなど、家庭での関わりに活かせる情報提供を強化する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域交流・外部との関わりの不足	・保護者評価において「地域の子どもの交流機会」が低評価となっており、事業所評価でも交流機会は十分とは言えない状況である。 ・日常支援に比重が置かれていることが要因と考えられる。	・児童館や地域資源の活用、合同活動の検討など、無理のない範囲で交流機会を段階的に増やしていく。
2	・家族支援・保護者同士の交流機会の不足	・ペアレントトレーニングや保護者交流に関する評価が低く、機会提供が十分ではない。 ・職員体制や時間的制約が背景にある。	・資料配布やオンライン形式など負担の少ない形での情報提供、ミニ講座や交流機会の導入を検討する。
3	・安全・非常時対応の周知不足	・マニュアル作成や訓練は実施しているが、保護者への周知や理解が十分でなく、評価にばらつきが見られる。	・避難訓練の実施報告、安全計画の説明資料の配布など、「見える化」を意識した情報発信を行う。